

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

特に発生に注意

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・今後の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆いましょう。
- ・伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

なす

アザミウマ類

- ・苗からの持ち込みによる発生がみられることがあります。
- ・発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モメントフロアブルなどを散布しましょう。
- ・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。

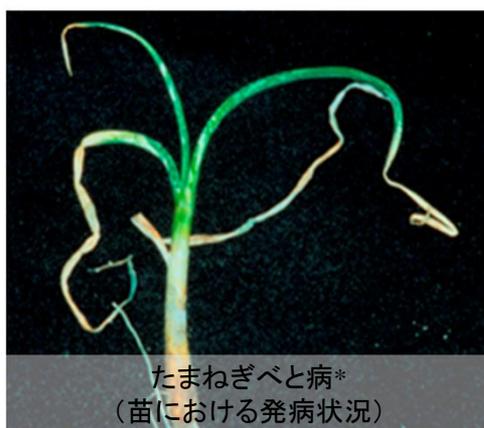
たまねぎ

べと病

- ・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越冬罹病株として1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・厳寒期の越冬罹病株は発見が難しい場合があるため、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布しましょう。



ミナミキイロアザミウマ成虫※

たまねぎべと病*
(苗における発病状況)

次回の情報は2月下旬にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稻

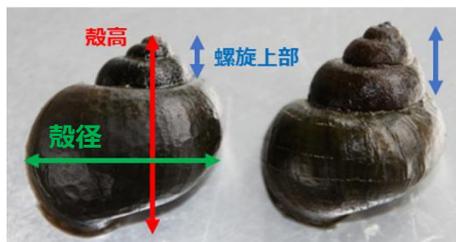
ジャンボタニシ（スクミリングガイ）



用水路(水口)のジャンボタニシ卵塊



ジャンボタニシ
(スクミリングガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ

ヒメタニシ

注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリングガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

ホームページに掲載しているカラー技術資料
「ジャンボタニシ（スクミリングガイ）から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子(分生孢子)が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

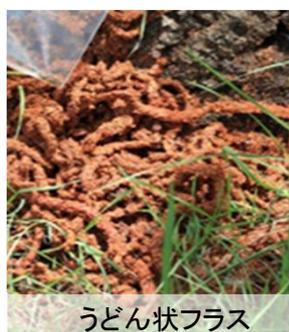
防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

伐採後の切株について



処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和2年5月13日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」

http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/bouj_voi_youhou/R0205kubi_aka.pdf

- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aronia_bungii/Aronia_bungii\(HB104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aronia_bungii/Aronia_bungii(HB104).pdf)

野菜

なす(施設栽培)

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、ディアナSC、アファーム乳剤、モベントフロアブルなどを散布する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病

すすかび病被害葉※
表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ 近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

きゅうり(施設栽培)

黄化えそ病(ミナミキイロアザミウマ)



キュウリ黄化えそ病被害葉

特徴

- ◆ キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス (MYSV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆ MYSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

防除のポイント

- ◆ MYSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除を徹底することが重要である。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、冬期においても、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

あぶらな科野菜（キャベツ、はくさい等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

菌核病



キャベツでの発病

特徴

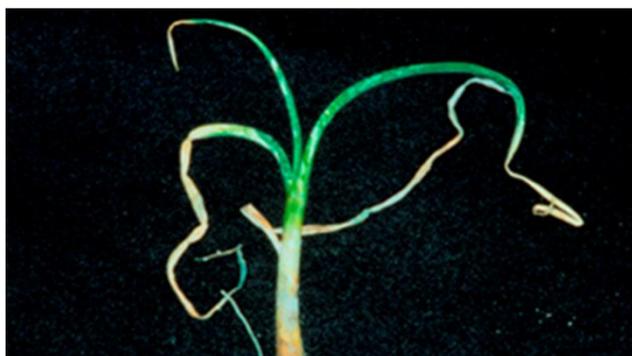
- ◆温暖、多雨により発生が助長される。

防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作に防除効果がある。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布する。

たまねぎ

べと病



べと病（苗における発病状況）*

特徴

- ◆苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越冬罹病株として1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

防除のポイント

- ◆厳寒期の越冬罹病株は発見が難しい場合があるため、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布する。

白色疫病



白色疫病発病株

特徴

- ◆2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。